生産性向上への取り組み

令和６年１０月３１日（木）

介護老人保健施設しもだ

事務長　宮崎　肇

施設の概要

〇介護老人保健施設しもだ
　　入所　　定員50名
　　通所　　定員100名

〇グループホーム
　　1ユニット　　定員9名

〇住宅型有料老人ホーム　定員30名

〇ヘルパー事業所

〇居宅介護支援事業所
　　ケアマネージャー　5名体制

〇在宅介護支援センター

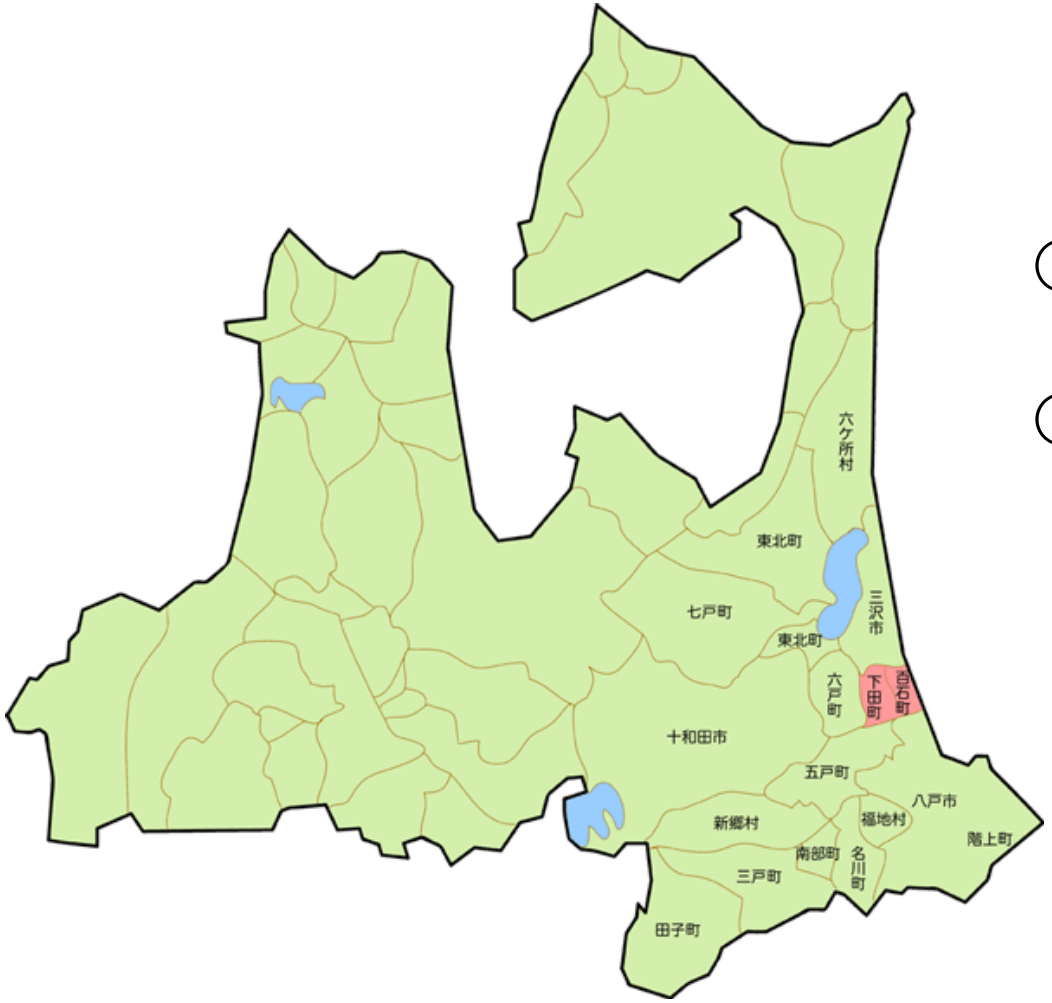
こんなこと感じた
ことありませんか？

無理…時間や労力がかかりすぎ。

無駄…労力の割に成果が小さい。

ムラ…多忙＆余裕　の差が
大きい。

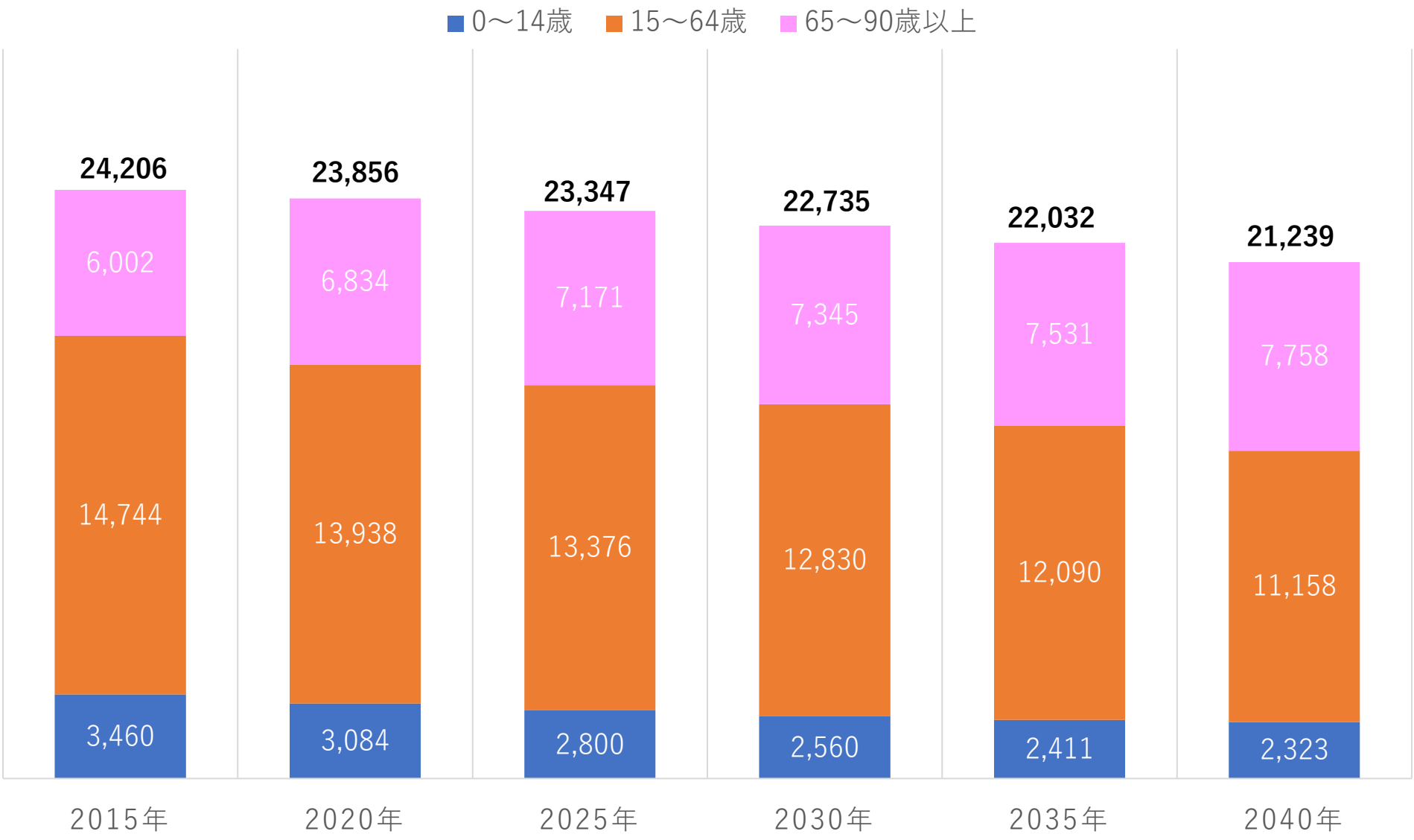
おいらせ町の概要



〇人口　　24,273人

〇高齢化率　27.5％（2020年）
- 青森県で3番目に低い
- 青森県で唯一人口増加

おいらせ町推計人口


0～14歳
15～64歳
65～90歳以上
24,206
6,002
14,744
3,460
23,856
6,834
13,938
3,084
23,347
7,171
13,376
2,800
22,735
7,345
12,830
2,560
22,032
7,531
12,090
2,411
21,239
7,758
11,158
2,323
2015年
2020年
2025年
2030年
2035年
2040年

2020年　青森県	
人口	1237984人
高齢化率	33.4%
生産年齢率	54.6%
生産年齢人口	676167人
老年人口	412943人

20年

2040年　青森県	
人口	908974人
高齢化率	44.4%
生産年齢率	47.1%
生産年齢人口	428573人(4割減)
老年人口	403143人(維持)

介護業イメージ

体力的、精神的にきつい	41.4%
給与水準が低い	40.2%
離職率が高い。	8.7%

労働人口減＋介護業界イメージの悪さ＝現場働き手減少

効率化必須

業務効率化・見直し

ICT・ロボット活用

外国人採用

多職種協働

1人あたりの生産性向上

チャンス(取り組んだ場合)

採用の増加
離職者減

利用者の増加

最先端化

実績向上

将来は二極化

リスク(現状維持をした場合)

採用困難
離職者増

利用者受け入れ困難

廃業

HONDA歩行アシスト

平成27年2月～

3台

脳楽習

平成29年７月～

１台

自動トロミサーバー

令和3年7月～

1台

介護ソフト

令和4年1月～

Physibo(フィジボ)
旧：HONDA歩行アシスト

課題把握…リハビリ科

・歩行についてのリハビリニーズは高い。しかし、理学療法士がいないため歩行訓練については結果を出せているか疑問がある。

・また、リハ専門職員数も充実しておらず利用者1人の個別対応時間をあまりかけられない。

Physibo(フィジボ)
業務オペレーションの変更

- 導入前

・歩行訓練はリハビリ専門職による1対１の付き添いにて実施

・歩行の指導は口頭指示、又は徒手的誘導

・歩行状況の評価はリハビリ専門職の知識・経験による分析と解説。

- 導入後

- 歩行訓練は事務員や介護員の1対１の付き添いにて実施。

- 歩行の指導はHONDA歩行アシストによる誘導

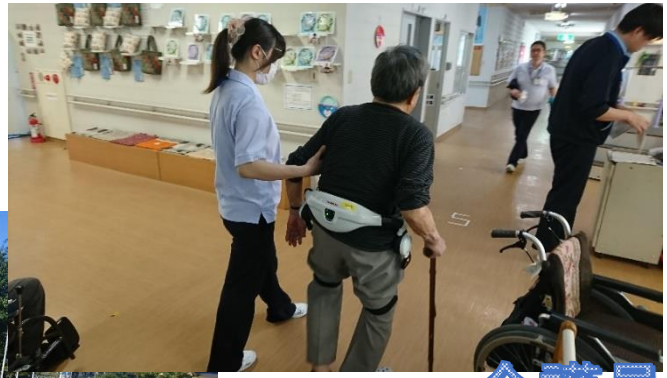
- 歩行状況の評価は定量化されたデータを提示。

(スピード、歩幅、対称度)

HONDA歩行アシスト

PT・OT

事務員



介護員

自主トレ

自主トレ

HONDA歩行アシスト
効果検証結果

使用群平均値（ｎ＝31）

	開始時	二か月後	P値
10m歩行時間(秒)	44.9	**32.5**	**P<0.03**
平均歩幅(cm)	28.4	**31.8**	**P<0.002**
平均歩調(歩/分)	70.6	**78.9**	P<0.15
挟み角対称性	0.66	**0.74**	**P<0.005**

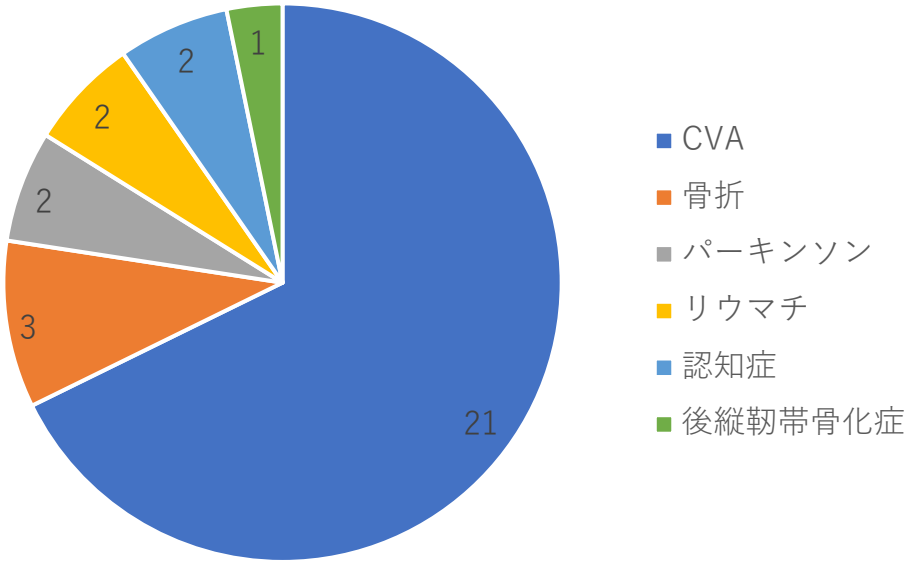
非使用群平均値（ｎ＝12）

	開始時	二か月後	P値
10m歩行時間(秒)	47.6	45.1	P<0.37
平均歩幅(cm)	29.5	31.2	P<0.12
平均歩調(歩/分)	77.7	72.3	P<0.33
挟み角対称性	0.57	0.64	P<0.15

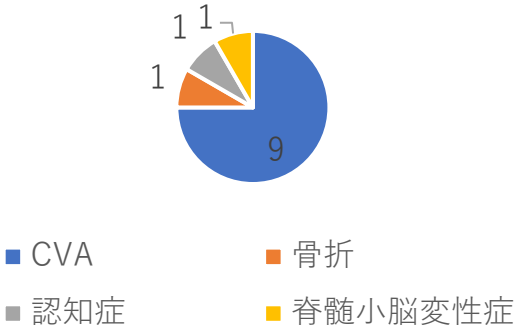
※開始時、2か月後ともにトルク出力ｏｆｆで計測

使用群と非使用群の疾患構成

歩行アシスト使用群(ｎ＝３１)



非使用群(ｎ＝１２)



脳楽習

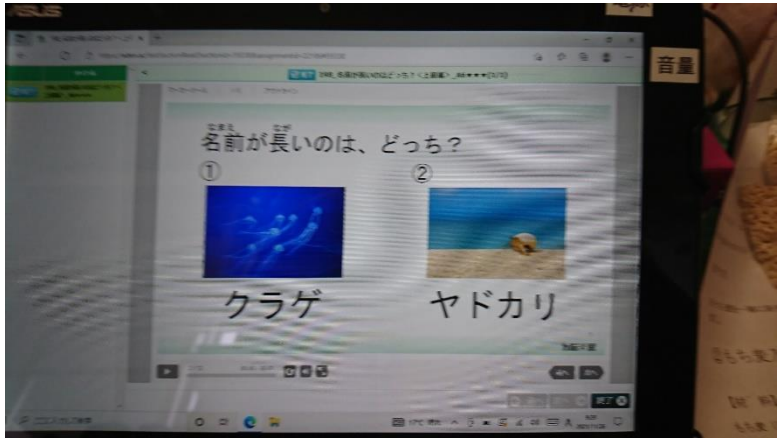
課題把握…リハビリ科

・言語聴覚士が1名しかおらず、言語訓練に対応できる枠に限りがあるため、新規の訓練を受け入れできない。

・集団レク、集団訓練の内容がマンネリ。考えるのが大変。正直飽きられている。

・司会、リーダーの力量もまちまち

脳楽習


音量
名前が長いのは、どっち？
①
②
クラゲ
ヤドカリ

電源
音量
5-2. 唇の体操 各10回
唇を丸めて「うー」
横に引いて「いー」

主に南半球に生息する鳥です。
飛べませんが、泳ぐのが得意です。

荒城の月(1/1)
荒城の月
▶ をクリックすると音楽が始まります。
「荒城の月」
1917年 歌曲
作詞：土井晩翠 作曲：瀧 廉太郎
0:00 / 2:42

脳楽習

5	静岡県　大井川　夢の吊橋		
6	山口県　日本海　１２３基の鳥居		
7	高知県　透明度が高い川　美しい青色		
8	兵庫県　雲海　天空の城		
9	和歌山県　立ち並ぶ岩　橋の杭のよう		
10	熊本県　水のカーテン　裏見の滝		

黒部渓谷・白金青い池・華厳の滝・鍋ヶ滝・浄土ヶ浜・橋杭岩

箱根神社・角島大橋・仁淀川・元乃隅神社・寸又峡・竹田城跡

脳楽習

ここに入力して検索　17°C 晴れ　9:41 2021/11/26

脳楽習
業務オペレーションの変更

- 導入前

・言語聴覚訓練は言語聴覚士により1対1の個別対応で実施。

・訓練枠が常に満員で新規の受け入れが出来ない。

・集団レク内容はリハビリ専門職が考案し、用具を準備する。

- 導入後

- 脳楽習にて言語聴覚士以外の職員が集団対応。個別対応が必要な場合は言語聴覚士が対応。
- 訓練枠に余裕が生まれ、新規の短期集中リハビリが実施可能に

- 集団レク内容は脳楽習に沿って実施。
（内容は毎月自動更新）

脳楽習

結果

- 言語聴覚士以外の職員が3人～8人程度の言語訓練対応が出来る。
- 言語聴覚士は新規を受け入れ可能になり、短期集中リハビリを提供できるようになった。
- 毎月コンテンツ内容が更新されるため、利用者は飽きにくく、職員は考案する手間がない。

APEX株式会社
トロミ自動調理サーバーの導入

■プロジェクトチーム（プロジェクト名：在宅復帰プロジェクト）

構成員		役割
リーダー	所属：　入所　役職： 氏名：あああああああさん	プロジェクト活動のとりまとめリーダー
サブリーダー	所属：　入所　役職： 氏名：いいいいいいいいさん	リーダーをサポート
メンバー	所属：　介護支援専門員　役職： 氏名：うううううさん	在宅復帰におけるケアマネジメント
	所属：　支援相談員　役職：　無 氏名：　えええええさん	ベッドコントロール、営業活動
	所属：　リハビリ科　役職：　主任 氏名：　おおおおおさん	地域に対する支援、在宅復帰のハードルを分析
	所属：リハビリ科　役職：　無 氏名：　かかかかかさん	地域に対する支援、在宅復帰のハードルを分析
	所属：　事務　役職：　主任 氏名：　きききききさん	在宅復帰指標、加算の管理

トロミ自動調理サーバー

課題把握…在宅復帰チーム

・在宅復帰率を高めていきたいが、肺炎による入院退所が比較的多い。

・肺炎予防には、口腔ケアとトロミのコントロールが大切だが、作成する職員によってトロミにムラがある。
・また、トロミをつける業務はとても時間がかかっている。

トロミ自動調理サーバー
業務オペレーションの変更

- 導入前

・トロミ付け作業は手作業で実施。

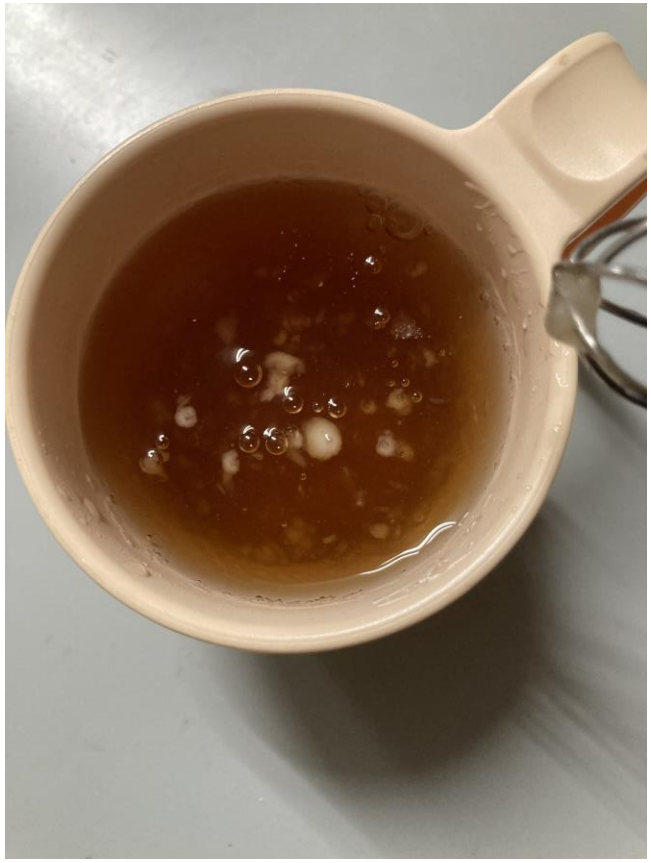
・トロミは　濃いトロミ
　　薄いトロミ
　　2種

- 導入後

- トロミ付けは自動調理サーバーを使用。

- トロミは　濃いトロミ
　　中間トロミ
　　薄いトロミ　3種

手作業で作っていたトロミ
1日 4回　合計 2時間40分かかっていた



手作業で作ったトロミ

トロミサーバーで作ったトロミ

結果

・ムラのない、トロミで提供されるようになった

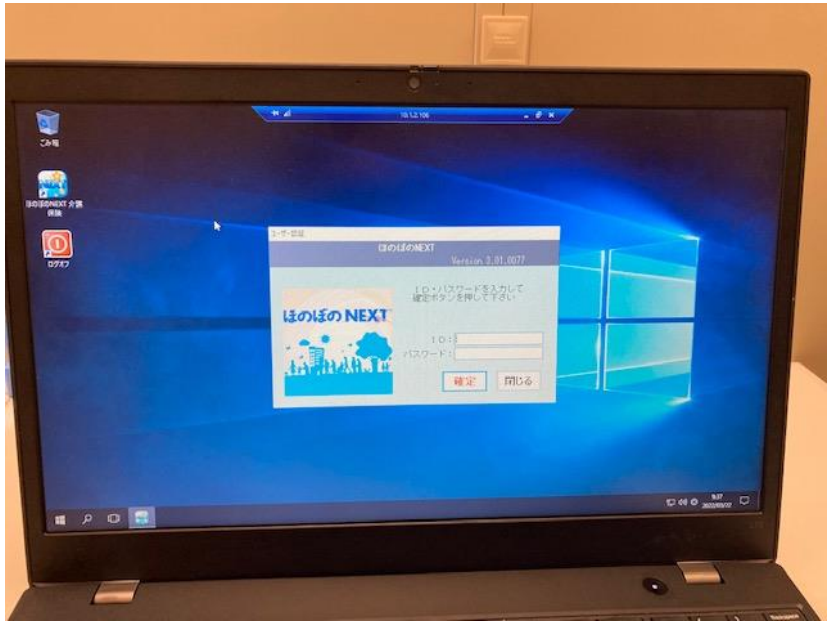
・肺炎による入院退所の抑制が期待できる。

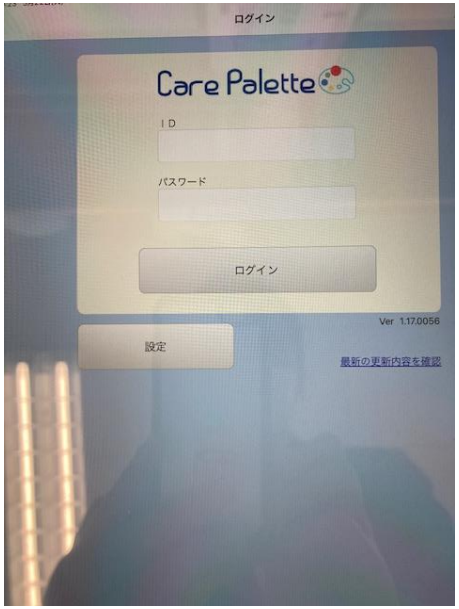
・経口摂取者の肺炎による入院退所は

導入後　0.4名/月　←導入前　0.7名/月

・作業時間の短縮　**1日2時間40分⇒　30分へ**

介護ソフト





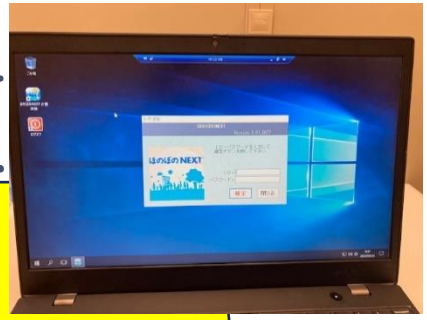
令和4年　2月導入

ほのぼのネクスト

課題把握…職員全体

・データ提出加算(ライフ)を算定したい。でも、紙ベース、手入力で絶対やりたくない。
・書類の転記ばっかり。同じ情報を何回も入力しており無駄がある。
・当施設独自制作のエクセルシートがあるが、不具合があっても作者しか修復できない。
・報酬改定の度にエクセルシートを作成するのは物凄く辛い。

ほのぼのネクスト
業務オペレーションの変更



- 導入前

・各書式は当施設独自のエクセル様式等を使用。

・データ提出加算用紙を期日を決めて回覧し担当者らが記入。事務員がライフへ入力と提出。(絶対やりたくない。)

・バイタルデータ、実施記録等は紙に記入集計し、エクセルに入力。

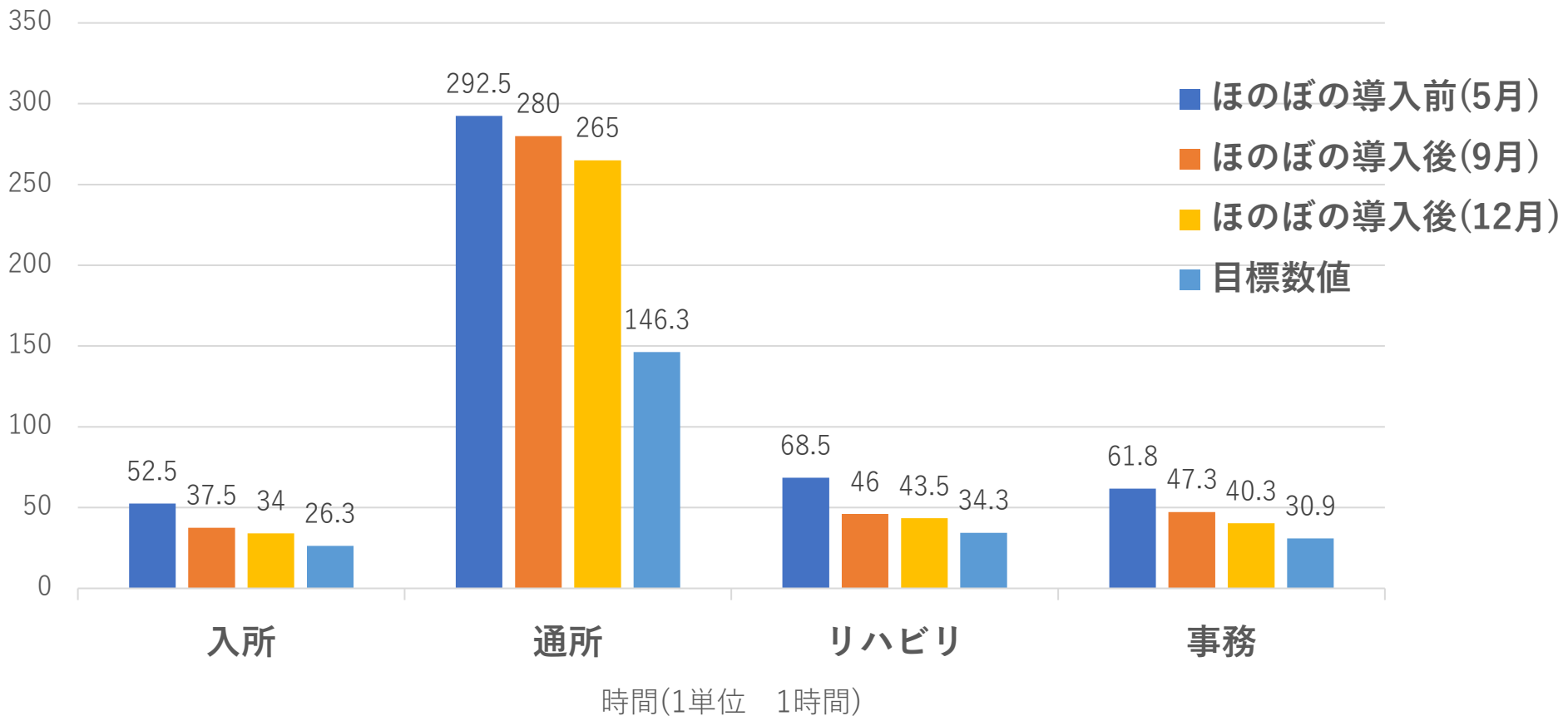
- 導入後

- ほのぼのネクストの様式を使用

- データ提出加算は各担当者が期日までに必要なデータをほのぼのネクストに入力。事務員がライフへ提出。

- バイタルデータ、実施記録等はタブレットＰＣ(ケアパレット)に直接入力・保存

書類業務時間　ほのぼの導入前・後



ペーパーレスについて

		ほのぼの導入前 紙使用量/月 (利用者1名に対して)		ほのぼの導入後 紙使用量/月 (利用者1
入所	ケース記録	3枚×５０名＝１５０枚		
	バイタル関係	１枚/月×５０名＝50枚		１ 枚
	排便状況	１枚/月×５０名＝50枚		１枚/月×５ 枚
入所担当リハ	実施記録	2枚×50＝100枚		０枚
計		350枚/月		100枚/月　（250枚減）

250×8か月
＝2.000枚減

840枚x6＝
約5.040枚減

				ほのぼの導入後 紙使用量/月 (利用者1名に対して)
通所 (通所担当リハ含み)	実施記録	３枚×約280人＝840枚		０枚
	計画書(カンファ分)	３枚×約93人＝279枚		３枚×約93人＝279枚
		1.119枚/月		279枚/月(840枚減)

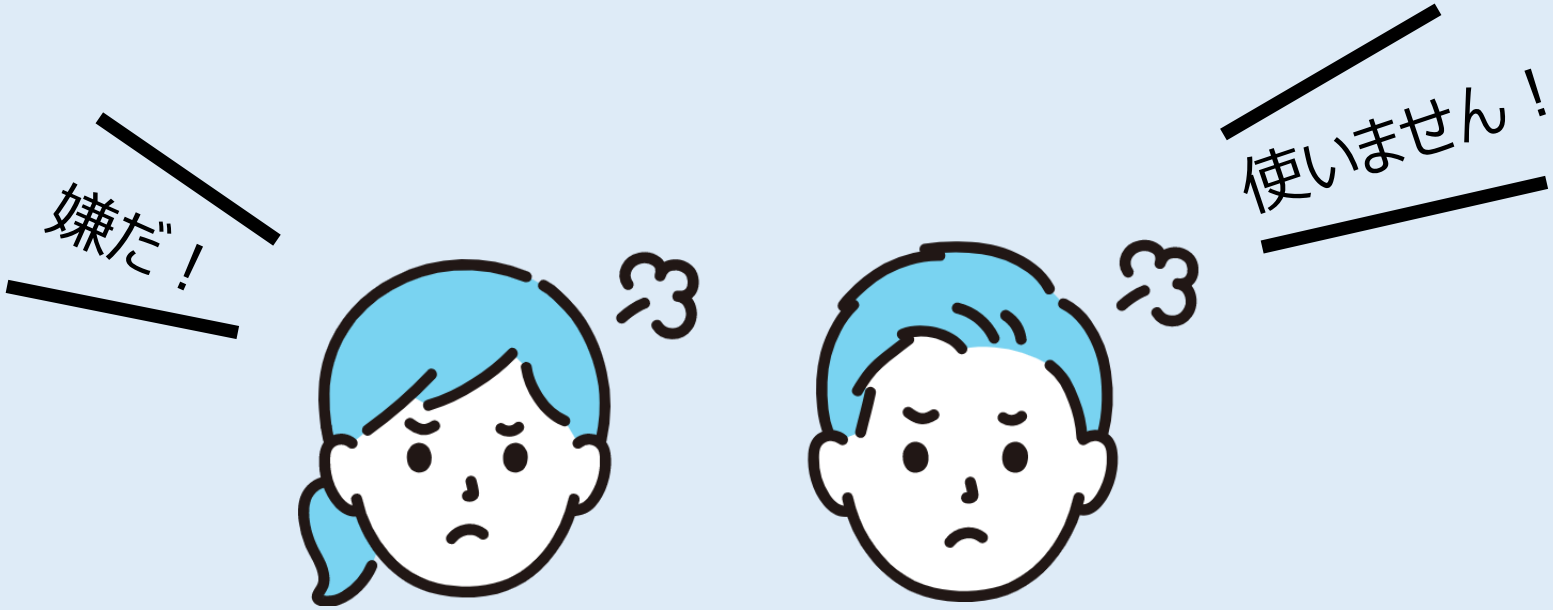
840枚×6＝5.040枚減

リラクゼーションできるロボットの導入

以前は、セラピストがご利用者1人1人対応していたが、ある程度はロボットが対応。

今でこそ受け入れられているが、
導入当初は・・・

最初からみんなに受け入れられない

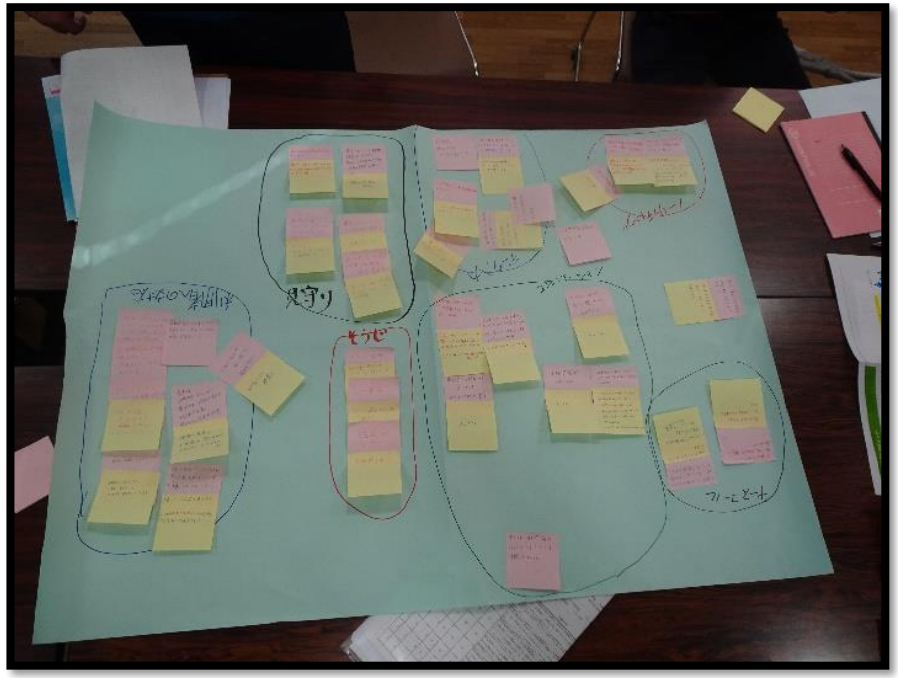


取り組み全体の流れ

	パッケージモデル		プロジェクトの流れ	
P	手順 1	改善活動の準備をしよう	• 改善活動を検討・実行に移すための体制づくり 関連職種にてチームを作る • 介護現場での課題把握 アンケート調査、課題分析ワークショップ、現場から聞き取り • 介護ロボット導入後のオペレーション変更の検討 導入施設視察、活用アイデアと方向性を共有 • 介護ロボット導入の効果を把握するための定量的な仮説の設定 • 時間効率、費用対効果、人員数、回数、負担感	４ヶ月
P	手順 2	現場の課題を見える化しよう		
P	手順 3	実行計画を立てよう		
D	手順 4	改善活動に取り組もう	• 介護ロボット導入準備（保管場所・活用ルール等の検討） • 介護ロボットを活用した利用者へのケアの提供 • 介護ロボット導入後の効果検証	２ヶ月
C	手順 5	改善活動を振り返ろう	• 期待していた効果（仮説）に対する、効果検証 • 振り返りミーティングの実施（良かった点、今後改善する点等の検討）	１ヶ月
A	手順 6	実行計画を練りなおそう	• うまくいかなかったことに対しての実行計画の見直し	月

現場の課題を見える化しよう

ケアの質を高めるための課題



ワークショップの様子

実行計画を立てよう

他施設の導入事例を参考

他施設を見学している様子

現場リーダー・管理者には
これを知ってほしい。

イノベーター理論とは

新しいことを始めるときに、人間はどのような集団に分かれ、どのような行動を取るのか、といったことを示した理論。

改善活動に取り組むと・・・

<u>4つのグループに分かれる</u>

① 積極派・・・新しいことに積極的(16%)

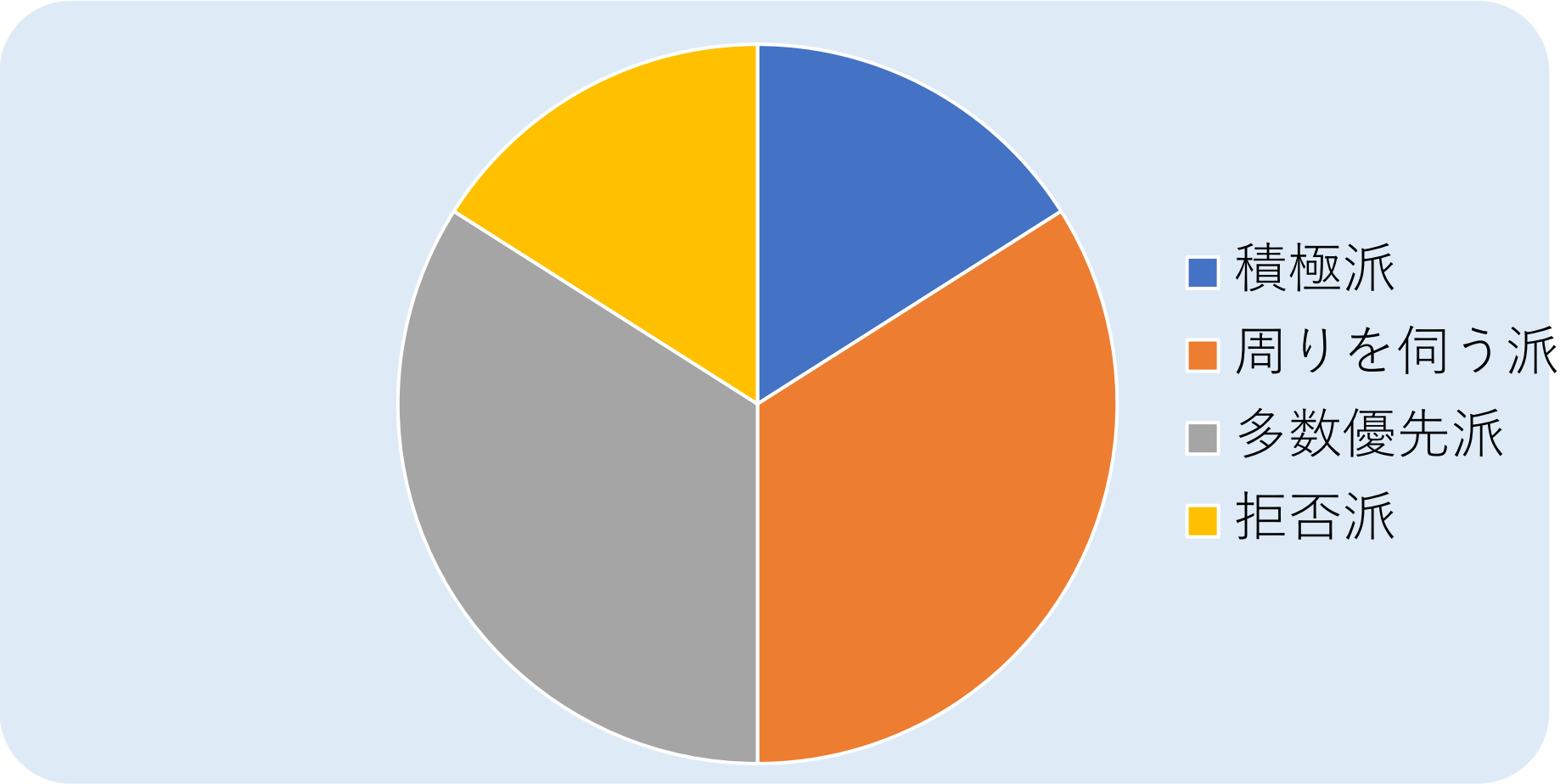
② 周りを伺う派・・・一人では嫌(34%)

③ 多数優先派・・・少数派は嫌(34%)

④ 拒否派・・・頑固拒否 (16%)

ポイントは『周りを伺う派』への支援

各グループの割合

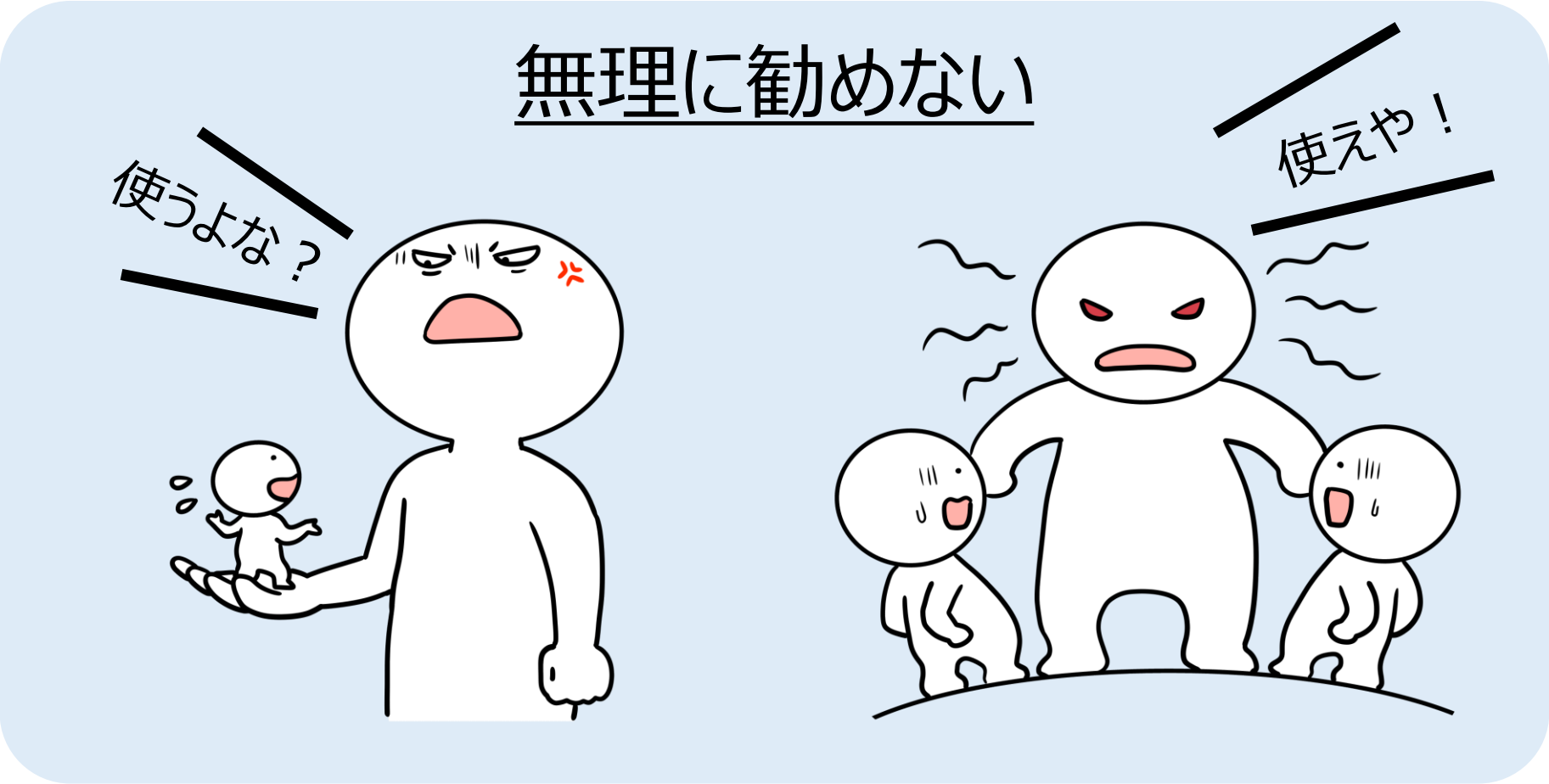


『周りを伺う派』の支援として①

『周りを伺う派』の支援として②

全派共通

悪いイメージを持たせないため



ご清聴ありがとうございました